

きだったと考えられている。ここからの高山植物の移動ルートには、東シベリアからサハリンを経由するルートと、カムチャツカ半島から千島列島を経由するルートがあった。それぞれのルートを旅した植物は北海道で合流し、津軽海峡を渡って本州へとさらに南下した。つまり北海道は、北方からの植物の玄関口になった。

*最新の機器を用いた系統解析から日本の高山植物の起源が解かってきた。北海道を含む北日本に分布する高山植物は、最終氷期に渡ってきたと考えられ、高緯度地域にいる集団と遺伝的にも近い。一方で、異なる遺伝子タイプを持つ中部山岳地域の高山植物は、最終氷期以前に渡ってきた古い系統である可能性がある。

*かつて同種とされていた高山植物が、系統解析で実際には別種だった例としてのヨツバシオガマは、東北以北から千島列島にかけて分布する大型の集団と、本州中部地

方に分布する小型の集団では、遺伝的に大きく違うことが判明した。現在、前者をエゾヨツバシオガマと呼び、中部地方のヨツバシオガマとは別種扱いにされている。

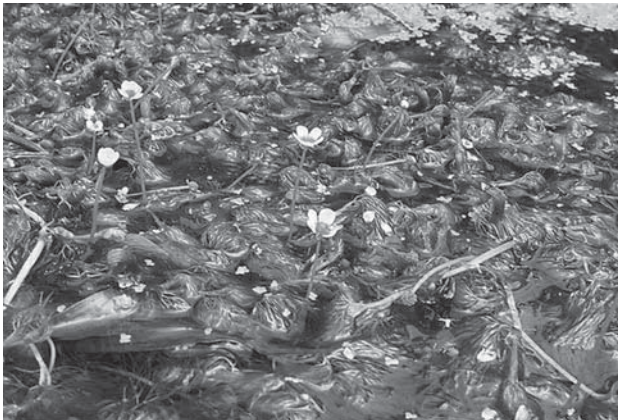
*ハクサンコザクラやミチノクコザクラは、基本種エゾコザクラの変種とされてきた。しかし系統解析によると従来の定説と異なり、系統樹の基部に位置するのは本州のハクサンコザクラやミチノクコザクラであり、そこから北海道のエゾコザクラが派生し、さらに北方圏（カムチャツカ・アラスカ）に広がっていった可能性が示されている。

気候変動による高山植物への影響の大きさを様々な角度から考察していて、考えさせられる。また、本書を読むことで高山環境について多くの新たな知見が得られ、今後高山帯を訪れた時の観察に生かしてみたいくなる。

(吉中)

会員が撮影した湿原・湿地⑥

撮影：佐々木 純一



バイカモ 大雪山系ワサビ沼
2020.7.25